

令和8年度学校評価実施計画

学校名

大分県立由布支援学校

前年度評価結果の概要	①教育課程・年間指導計画の改善については、節目に学部ごとに集まって年間指導計画検討会を開催したことで、学部全体の単元・題材の流れを認識することができ、内容の点検・修正を効果的に行うことができた。また、「キャリア発達の見取り図」案の見直しを行い、年間指導計画との関連づけを進めることができた。来年度は、「キャリア発達の見取り図」や「各教科の見方・考え方」を踏まえた年間指導計画の実施と振り返り、改善のサイクルの定着をめざしたい。 ②授業改善については、学年ごとで「単元・題材PDCAシート」をもとに目標と活動内容を関連付け、授業の意図が明確になるように計画・実施・振り返りの機会を持ち、授業改善を行った。全学年が互見授業を2回ずつ(22事例)行い、お互いの実践を各々の実践の参考にすることができた。来年度は、授業の意図を踏まえつつ、協働的かつ個別最適な授業づくりをめざしていく。 ③キャリア教育の推進については、各学部とも、キャリアノートを軸に子どもとの対話の充実を図り、その内容を踏まえて保護者とも対話して、子どもの成長を確認することができた。また、子どもたちの「キャリア発達」を見取るための「見取り図」案の見直しを行い、「キャリア発達の見取り図2. 0」が完成した。来年度は、この「見取り図」を職員だけでなく保護者とも共有し、子どもの成長を見取るための共通言語になるようにしていく。 ④各関係機関との連携については、各学部とも、関係する学校と交流を行い、親交を深めたり地域の企業や機関と連携した取り組みを実施したりすることができた。来年度は、今年度深めることができた関係をもとに、さらなる交流や協働の活動を推進していく。 ⑤安心・安全な学校づくりについては、定期的に職員朝礼後に、テーマを決めて短時間で、数日に分けて行う研修を実施することによって、安全に対する内容の視点や具体的な対応についての意識を維持・向上することができた。来年度も引き続き、安全に関するテーマを吟味して効果的に実施していく。 ⑥職員の業務改善については、前期1回、後期1回、各部署で案を出し、主体的に検証しながら実施することができた。また、生成AIの利活用の研修を進めたことで、授業準備などで業務改善に効果的であることがわかった。来年度は、各部署の主体的な業務改善を推進するとともに、校務DXによる業務改善にも積極的に取り組んでいく。 ⑦働き方改革の推進については、職員の意見を広く募った上で立案した勤務実態改善計画にもとづいて取り組んだ結果、時間外勤務の減少やストレスチェック集団分析の好結果につながったと考える。また、服務規律研修を「ちょっと一服研修」とし、職員間の対話を大事にした研修を実施したことも、風通しのよい職員関係につながったと思われる。来年度も引き続き、職員同士の対話を大事にした職場づくりを、職員全員で推進していく。
------------	--

学校教育目標	中期目標	重点目標
人権尊重の精神を踏まえ、一人一人の特性や教育的ニーズに応じた教育活動を行い、生きる力の基礎基本を養うとともに、主体的に自立と社会参加をめざし、夢と希望を持って心豊かに生きていく児童生徒の育成を図る。	(1)一人一人の障がいの状況や特性等を考慮した、計画的で質の高い教育活動を展開する。 (2)家庭や地域、各関係機関との連携により、児童生徒が学校内外で生き生きと活動できる安全・安心な環境づくりを推進する。 (3)職員一人一人が豊かな個の時間を持ち、心身共に健康な状態で働くことができるよう、働く環境の改善を進める。	○「なりたい自分」に向け、主体的に学び、考えて課題を解決しようとする児童生徒の育成 ○家庭や地域、各関係機関との連携により、学校やその周辺、居住地域の安全で安心な環境の中で、他者と関わり生き生きと活動する児童生徒の育成 ○個の時間を大切に充実させると共に、ゆとりをもって児童生徒に向き合うための働き方改革の推進

PL:プロジェクトリーダー、SL:サブリーダー				
重点目標	達成(成果)指標	重点的取組	取組指標	PL SL
○「なりたい自分」に向け、主体的に学び、考えて課題を解決しようとする児童生徒の育成	・1、2学期末に授業者に向けたアンケートを実施し「単元・題材の時間のまとまりの中で、必ず課題解決の場面を設けた」の回答で「できている」または「概ねできている」の割合が80%以上(前年度77.5%) ・各研究グループが前期・後期各1回ずつ『単元・題材PDCAシート』を基に互見授業を実施(前年度11グループ×2回) ・『キャリア発達の見取り図』を踏まえ保護者とのキャリアノートを活用した面談の実施(各学期1回)	「キャリア発達の見取り図」および「教科等横断的な」視点を踏まえた、各学部・学年の年間指導計画のPDCAサイクルの確立	・各教科等の見方・考え方、単元・題材の設定意図、「キャリア発達の見取り図2. 0」に基づく意思形成支援の手立て等が明確になった年間指導計画の策定、修正にかかるPDCAを確立する。(4月、7月、12月、2・3月) ・学部・学年の重点目標の達成に資する学習活動の計画を中心とした教科等横断的な計画の立案や振り返りを行うための単元・題材配列表の作成と見直しを実施する。(4月、7月、12月、2・3月)	PL:教務主任 SL:主幹教諭
		協働的かつ個別最適な学びを踏まえた、子どもが主体的に課題解決をする授業づくり	・「協働的かつ個別最適な授業づくり」についての研修の実施(1学期) ・各学年一つの単元・題材について、『単元・題材PDCAシート』をもとにした、授業構想と振り返りの実施(1学期) 『単元・題材PDCAシート』をもとにした、互見授業の実施(①9月②12～1月) ・研究内容について、全体への還流報告会を実施(9月、2月)	PL:研究主任 SL:主幹教諭
		「キャリア発達の見取り図」を軸とした、本人・保護者・学校が連携するキャリア発達支援の推進	・「キャリア発達の見取り図2. 0」の考え方や活用についての研修を実施し共通理解を図る(年度当初1回) ・「キャリア発達の見取り図2. 0」について、保護者に説明し理解を図る(4月) ・本人・保護者との「キャリア発達の見取り図2. 0」と「キャリアノート」を活用した面談等の実施(各学期1回) ・本人・保護者との面談を踏まえた、個別的教育支援計画の加筆・修正(各学期1回)	PL:進路指導主任 SL:学部主事、教育支援主任
○家庭や地域、各関係機関との連携により、学校やその周辺、居住地域の安全で安心な環境の中で、他者と関わり生き生きと活動する児童生徒の育成	・全学部の学校間交流の実施と併せて、希望する児童生徒の居住地校交流を100%実施 ・地域の方、関係機関の方と協働して行う学習活動を各学部年間3事例以上実施 ・教職員の連絡ミスや見落とし等のミスにより、児童生徒が入院する等の重大事件・事故0件	地域との豊かな関係をめざした協働的な活動の推進	・各学部での学校間交流、希望者による居住地校交流の実施(年間1回以上) ・地域の方、関係機関の方と連携した学習活動の実施(年間2回以上)	PL:各学部主事 SL:主幹教諭、生徒指導主任
		・教職員による「児童生徒の安全の維持・向上のための視点」の育成 ・児童生徒の障がいや疾病の状況に応じた、緊急時の対応訓練(搜索訓練、傷病対応訓練等)の実施と改善	・ヒヤリハット、摂食指導等についての研修を実施(職員朝礼時の5分研修を1週間、学期に1回実施) ・「搜索」と「傷病対応(全体・個別)」について、職員研修及び訓練を実施(年度初めに訓練、学期はじめに内容確認)	PL:主幹教諭 SL:保健主任、生徒指導主任
○個の時間を大切に充実させると共に、ゆとりをもって児童生徒に向き合うための働き方改革の推進	・全学部、全分掌において業務効率化または削減の取組を、前後期各1業務以上実施 ・職員の90%以上が年度内15日以上の子休取得	・学校行事・会議・分掌等の各業務の内容や運営の効率化及び削減(業務改善)	・各種会議・委員会等の日程や主たる議題を年度当初に提案する。(4月) ・各学部、分掌で、業務の進捗状況にかかる点検・見直しを行う。(7月、12月) ・各学部、分掌は業務全体の振り返り、引継ぎ事項を検討・確認するとともに、全体に共有する。(2・3月) ・生成AIの運用に関する校内ガイドライン、体制を確立する。(4月) ・生成AIの運用に関する研修を実施する。(各学期3回程度)	PL:主幹教諭 SL:各分掌主任、学部主事、情報教育主任
		・生成AIの活用による業務改善(効率化・縮減) ・「風通しの良い職場づくり」の推進による心理的安全性の確保 ・年次有給休暇取得の推進	・生成AIの活用による教材研究や作成、業務改善に関する情報の収集と共有の推進 ・学部の枠を解いた対話型の研修として「ちょっと一服研修」を実施する。(年度初め、学期末) ・勤務実態改善計画の推進にかかるPDCAを確立する。(4月、8月、12月) ・年休を取得しやすい環境を整備する。	PL:衛生管理者 SL:各学部主事